

青陵

今夏の西日本豪雨で被災されました
青陵高校関係者の皆様の早期復興を
心よりお祈り申し上げます。

今号の主な紙面

- * 2、3頁 本部同窓会
- * 8、9頁 創立110周年記念式典
- * 10、11頁 学校の近況
- * 12頁 「倉敷の老舗」を訪ねて④
- * 13頁 「趣味に生きる」
- * 16頁 菅井王位を育てた北村実さん(3期)
- * 別冊 1～3頁 同窓会、部活OB会だより

ごあいさつ

国立合格者率全国2位誇り

同窓会副会長 武部 洋治(15期)



同窓会会員の皆様には、益々ご健勝でのご活躍のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会活動にご理解とご協力いただき、心よりお礼申し上げます。

母校は、何事にも積極的に取り組む在校生と教職員のたゆみない精進と努力を積み重ねた結果、2018年の国立合格者率は全国第2位、岡山県では第1位という素晴らしい進学校になりました。大変誇らしく思っています。

今後とも岡田会長を支え、同窓会活動の進展と母校の発展に微力ながら力を尽くします。皆様におかれましても、より一層のご支援をよろしくお願いたします。

創立110周年式典ご協力感謝

校長 土家 慎夫(同窓会名誉会長)



同窓生の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察いたします。また、日頃から本校教育に対しまして温かいご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

今年、創立110周年の区切りの年を迎えており、9月には同窓会のご協力をいただき、盛大な記念式典を挙げる事ができました。今日までに築かれてきた校風と伝統を受け継ぎ発展させるとともに、社会の変化にいち早く適応できる新しい時代を見据えた教育のあり方を追求していかなければならないと考えております。母校の発展のため引き続き応援をよろしくお願いたします。

最後に、同窓生の皆様のご活躍とご多幸をお祈りいたしてご挨拶とさせていただきます。

生徒の挑戦をしっかりと支援

教頭 妹尾英津子



同窓会の皆様には益々ご清栄のことと存じます。私は平成30年の人事異動で赴任してまいりました。学びに向かい、自ら伸びようとしている青陵生を前にし、身の引き締まる思いでおります。どうぞよろしくお願いたします。

現在、青陵高校では主体性の伸長を図り、高質な学力を養成する取り組みを進めています。生きて働く知識や技能を習得し、それらを活用することで深く思考する。そして、自らの考えを表現することで、さらに学びを深める。

本校の素晴らしい学習環境を生かし、生徒の挑戦をしっかりと支援してまいります。今後とも同窓会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

たくましく心豊かな生徒を育成

副校長 泉 浩明



同窓会の皆様には、平素から母校の教育活動の推進に心強いご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。青陵生は本校の伝統と実績を背負いながら、日々互いに切磋琢磨し、何事にも一生懸命取り組んでおります。整った学習環境の中で学ぶことができるのも、ひとえに皆様のご助力あつてのことと思っております。

これからの教育には、予測できない変化に主体的に向き合い、新たな価値を創造していく力が必要とされています。新時代を拓く心豊かでたくましい青陵生を目指し、さらなる教育内容の改善に努める所存です。同窓会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本部同窓会役員と学校側の校長ら



るねえ」との感嘆の聲が上がりました。

議事では事業・決算報告、予算案を審議、本部・支部旗の製作、会員名簿の発刊など5件が報告されました。

東京、近畿、九州の各支部代表の活動報告を聞き、出席の恩師紹介の後、懇親会に移りました。

出席者は久しぶりの再会に近況報告で盛り上がる中、独楽回しの余興、本部役員・学校側、当番幹事の集合写真を撮りました。

最後に「同窓会だより 青陵」編集主幹・佐藤豊行さん(18期)から『同窓会だより』は年末に50号の節目を迎えます。多くの同窓生の善意(発行協力金)により発行しています。有効に活用していただきたいとのメッセージがありました。

なお、今回の当番幹事は主に3, 4, 13, 14, 23, 24, 33, 44, 69期の皆さんでした。

□…本部総会の後、会場の別室で3, 4, 13, 24期が同期会を開きました。

同窓会本部総会

(平成30年8月5日、倉敷アイビースクエア)

岡田体制2年目の同窓会本部総会が開かれました。7月の西日本豪雨で被災された本校の関係者もたくさんおられましたが、例年並みの約300人の出席者があり、被災を乗り越えようとする母校のパワーを感じました。

総会ではコーラス部の軽やかな美声を聴いた後、岡田展弘会長(25期)が「平成最後の同窓会です。楽しい時間を過ごしてください。豪雨の義援金を募ります」とあいさつしました。土家慎夫校長(名誉会長)からは「9月の創立110周年記念式典のご協力ありがとうございます。国立大学の合格者数は中四国・関西で五指に入ります」との話に、会場から「後輩はや

被災乗り越え300人出席

◇表紙の写真 天神窯(13期・岡本篤さん)の干支の作品。次の年の干支に合わせて毎年秋に窯出しする。先代から70年続く伝統。

当番幹事 ご苦労さま

3
期



4
期



13
期



14
期



23
期



24
期



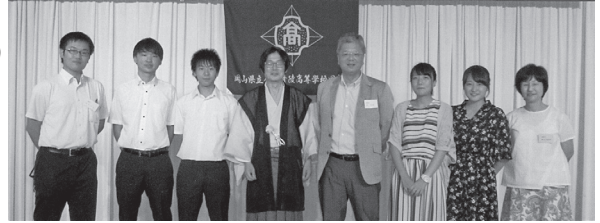
33
期



44
期



69
期と
恩師



中距離ランナーで 陵歌祭メンバー

* 祇園 譲さん (23期)

「総会出席は3回目です。部活は陸上部でした。中距離の800mと1500mをやってきました。県大会で予選を通過できるかどうかの力でしたね。文化祭では応援団と演劇部の舞台照明係でした。陵歌祭はグラウンドの中央に木を井桁に組んで華々しくやったのが一番の思い出です。牛窓生まれですが、父の転勤で中学校から倉敷に来ました。岡山ガスに40年以上務め、現在は役員をしています」

(岡山市在住)

青陵祭で応援用 ワンピース作る

* 佐藤(旧姓赤木) 康恵さん
(33期・家政科)

「いやあ、乾杯の音頭ね、最後の総会準備会で急に言われて…。緊張しましたよ。総会出席は当番幹事の年ごとだから今回が3回目です。家政科の同級生7人で来ました。部活はバドミントン部でした。青陵祭では応援用にその年のブロックの色に合わせワンピースを作りました。家政科じゃから得意なんですよ。美観地区の土産物店で、もう14年アルバイトをしています。備前焼や銘菓、果物を売っています。メキシコや台湾の人が多く、言葉が通じなくても面白いですよ」

(倉敷市在住)

参加者ひとこと

青陵高校同窓会は、今夏の西日本豪雨被災者の早期復興を願って義援金を寄託しました。
本部同窓会は、8月5日に倉敷アイビースクエアで開いた総会で義援金20万円を倉敷市へ寄託することを決め、同月持参しました。

祈 豪雨復興 青陵同窓会が義援金

本部 倉敷市へ20万円、青陵高へ14万円余

東京青陵会 ゆうちよ銀行災害口座へ10万円

さらに、本部同窓会総会の会場で参加者から募った義援金14万1708円を同月17日、青陵高校へ寄託しました。被災された教員2人、生徒12人への直接の見舞金です。

東京青陵会は7月20日、ゆうちよ銀行の倉敷市西日本豪雨災害義援金口座へ10万円を寄託しました。



バンド演奏などで盛り上がった東京青陵会のメンバー

プロと組み初のバンド演奏

今年の東京青陵会は約90人の同窓生が集い、来賓として倉敷から校長土家さん、同窓会長岡田さん、副会長武部さん、古畑先生、そして倉敷市東京事務所の船越所長にご来席いただきました。

司会は23期の室山先輩に引き受けていただきました。収支報告などの総会の後、懇親会へ進みました。懇親会の出し物を検討していた中で、今年初めての試みとしてバンド演奏を取り入れたという希望があり、長年カメラマンを担当していた私がバンド演奏を行うことになりました。

25期の武本会長の縁で、プロのミュージシャンたちとバンドを組ませてもらい、昭和歌謡やフォークソング、ブルースなどを演奏し、一曲は岡田同窓会長に歌っていただきました。音が大きくて話が辛いと思われる方もおられたかもしれませんが、良い評価も多く楽しんでもらえたと思っております。

会の終盤には校歌、校歌を歌って盛り上がる中、中締め役を任せつかり、多くの笑顔を見ながら閉会し、私自身もしっかり楽しんで会となりました。

副会長 河崎孝夫 (30期)

参加者ひとこと

*奈喜良忠浩さん (38期)

「私が東京青陵会に参加するきっかけになったのは、恩師古畑先生に会いたかったからです。私の1年の担任でありサッカー部の熱血顧問でした。先生は今回で3回目の登場でしたが年々若返っているよう！ サッカー部時代の先輩たちと先生を囲んでの思い出は最高でした。東京青陵会では20代、30代の卒業生の参加を待っています。みんなで盛り上げましょう」

(東京都在住)



古畑先生(前列左から2人目)と元サッカー部員

サッカー部顧問や先輩と盛り上がる

私の青陵時代



18期 古米 完二

ギャラリーがいっぱい、ようし今じゃ！手に滑り止めの砂も満足に付けずにグラウンドの鉄棒に飛びついた。蹴上がりや軽くさばき、その反動を利用して倒立する。約1秒静止したあと全体重を乗せた車輪は満を持して勢いよく回転した。

体中の血液が頭からつま先まで激しく駆けめぐり、宇宙が色を変えてくるくる回る。えも言われぬ快感である。ところが、この爽快感に酔いしれる間もなく、突然忌むしい不幸がやってきた。

2回目の回転に突入しようとする直前に両手がつると滑ったのである。鉄棒がブーンと逝って眼下で激しく揺れた。私の体は上空高く逆立ちの形のまま舞い上がり、地上3mの位置まで達した後、なすすべもなく頭から落下した。

固い土の上。衝撃で体が反転した。その瞬間、両手首、ひじ、肩、額に強烈な痛みが走った。よく見たら左ひじ関節を突き抜いた骨が後方に10センチばかり皮を破らないまま飛び出している…。

昭和39年、青陵へ入学して3カ月目。炎夏の初夏の朝、朝礼が終わった直後に、かっこいいところを見せようとして起こした一瞬の事故だった。入学してすぐ覚えた大車輪。まともにはできるのは、まあ青陵では俺ぐらいじゃーと自負していたのがいけなかった。

かっこよく大車輪！ 転落大けが 因縁の鉄棒で体育祭懸垂V



苦い思い出の鉄棒を握り3年生の体育祭懸垂大会で優勝した=昭和41年

落下直後、柔道部顧問の大森先生(四段)らが応急処置をしてくれて学校近くの外科病院へ運ばれた。医師から「左腕は強度の脱臼に関節囊破裂、関節部分の骨折。頭部の異常はないが10日間の絶対安静」と告げられ緊急入院した。

校内ソフトボール大会と卓球のインターハイ予選を直前に控えた大切な時期だった。

この「古米事件」、新聞には載らなかったものの、「あのお調子者が…」「完ちゃん、大丈夫か」と、当然ながら校内の大きな話題になった。

退院後、左腕の腫れが引いてからギブスを1カ月はめた。ギブスを取ってみると、わが命を救ってくれた左腕がやせ細り硬直していたのを、あらゆる方法で辛抱強くりハビリをして何とか元に戻したが、古キズは半世紀以上たった現在も時々痛む。

苦い思い出をつくってくれたこの鉄棒だが、3年の秋の体育祭では、私が提案して新種目に採用された鉄棒の懸垂大会で見事優勝(32回?)を果たし溜飲を下げたのを懐かしく思い出す。

□…古米さんは卓球部でインターハイ出場を目指す有望選手でしたが、このけがにより予選大会出場を断念しました。中学時代には倉敷市新人戦で優勝、岡山県大会3位の実績があります。不動産会社経営、倉敷市在住。

昨年よりやや寂しくなった近畿青陵会



近畿青陵会 (平成30年5月27日、大阪・太閤園)

岡田同窓会長や土家校長ら来賓を含め58人の参加者で開催しました。4期から41期までの幅広い年代、遠くは香川や滋賀からも来てくれましたが、昨年より14人も減ったのが残念です。総会では常任幹事の小宮幸久さん(24期)が退任、後任に田中均さん(34期)が選任されました。来賓の日本有数のピアニスト松本和将さん(49期)の華麗なテクニクの演奏を聴き、贅沢な時間を共有しました。当番幹事の21期、31期、41期の皆さん、お世話になりました。

野球部黄金期のメンバー

***小野 功さん (13期)**

「10年ぐらい前から時々参加しています。青陵時代は野球部でサードを守っていました。江国一岡本(紘)のバッテリーなどメンバーが充実していて、春・秋の県大会は岡山東や関西を破ってベスト4、ベスト8に食い込みました。江国一岡本は日米野球のメンバーに選抜されたほどです。私たちの前後のことは分かりませんが、青陵黄金期ではなかったかな。小学校教員をしていました」

(大阪府在住、倉敷市出身)

前日ミニ旅行を初企画 京都へ

***田淵 敦士さん (41期)**

「4、5年前から参加しています。今年のメイン幹事で案内状発送や出欠集計をし、当日は司会を務めました。前日に初めてエクスカーション(ミニ旅行)を企画し、京都・清水寺に12、3人で出かけた様子をスライドで紹介しました。京都府立大学の生命環境学部準教授で構造力学を教えています。私自身のテーマは木造建築の耐震です」

(京都市在住、倉敷市出身)

参加者ひとこと

本部と3支部 同窓会旗デビュー

同窓会の本部旗と東京、近畿、九州3支部の支部旗の計4枚の同窓会旗を平成30年春、新調しました。「同窓会で掲示するものがほしい」という声に、同窓会事務局が応えたものです。

4枚とも縦90センチ、横120センチです。濃紺地の中央に校章、その下に本部は「岡山県立倉敷青陵高等学校同窓会」、これに加え支部は「東京支部」「近畿支部」「九州支部」を入れました。伝統校にふさわしい厳粛さと風格が漂う体裁に仕上がっています。費用は約10万円。



会報取材用の腕章も用意

新調した同窓会旗(本部用)と取材用腕章

同年の4同窓会の会場でそれぞれデビューし、参加者から「絆が深まるいい旗が出来ましたねえ」と好評でした。

さらに、「同窓会だより」取材用の腕章も作りました。編集室スタッフからの要望に沿った対応です。対外取材でマスク各社と同席することから身分を明らかにし、取材をスムーズに行うためです。費用は約7000円。腕章は幅9センチ。濃紺地に黄金色で「倉敷青陵高校 同窓会広報」と、目立つ刺しゅうを施しています。

同年8月5日に開かれた本部同窓会総会の取材でデビューしました。



同窓会員名簿を5年ぶり改訂

青陵高校同窓会(岡田展弘会長)は平成30年5月、「会員名簿」写真IIを刊行しました。5年ごとに改訂、第39号です。倉敷高女1期生から今春卒業の青陵69期生まで、物故者や住所不明者を含む全卒業生約3万4000人の住所、連絡先を収録しています。併せて、会則や歴代校長、旧職員の名簿も掲載しています。

倉敷市在住が半数近い43%



末尾に「全国に広がる同窓生」という興味深い統計を載せています。それによると、北海道27人、沖縄7人など47都道府県をすべて網羅、海外にも109人在住しています。文字通り全国展開です。在住者の市区町別ランキングは、①倉敷市1万4495人②岡山市北区10599人③総社市843人1となっており、倉敷市が全体の43%を占めています。名簿はA4判、700ページです。2900部印刷、購入希望者を中心に配布しましたが少し残部があります。1冊3500円です。

多くの現役学生の参加で盛り上がった九州青陵会



九州青陵会

(平成30年10月13日、
福岡・西鉄グランドホテル)

現役学生5人参加 盛り上がる

第12回総会に、本部同窓会から岡田会長(25期)、加川前会長(4期)、土家校長らがかけつけ、24人が出席しました。今年も九州大、九州工大、鹿児島大など現役学生5人が参加してくれ、昨年よりにぎやかでした。

喜多村真美さん(26期)の軽妙な司会で、溝手九州青陵会会長(8期)、岡田会長のあいさつの後、土家校長が9月の創立110周年記念式典の報告、森和俊京大教授の近況などを話しました。学生5人はいずれも初参加です。そのうちの2人は就職が内定していて、先輩から社会人としての心構えをアドバイスしてもらっていました。年代を超えて和気あいあい楽しく交流、明日への活力を養いました。

参加者ひとこと

「同窓会だより」に集合写真を提供

*田中 進さん(20期)

「数年前に声がかかり毎年参加しています。同窓会広報(佐藤編集主幹・18期)の要請で、集合写真を撮って『同窓会だより』へ提供しています。今回、山岳部の平松先輩(18期)に会いましたよ。建設会社を経営しています」

(旧北房町=真庭市=出身、
山口県周南市在住)

(有)ひびき調剤薬局

名 倉 万寿夫(19期)

〒803-0836 北九州市小倉北区中井3-15-1
☎093-571-3938

アグチ興産

代表 田 中 進(20期)

〒745-0121 山口県周南市須々万奥289-9
☎0834-88-2529

九州で活躍する同窓生

大牟田中央病院

院長 溝手 博義(8期)
(九州青陵会会長)

〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町575
☎0942-82-1171

九州青陵会

副会長 平野 善次郎(20期)

〒810-0064 福岡市中央区地行2-10-20-104
☎092-762-8846

村岡屋ギャラリー

ギャラリーコーディネーター

喜多村 真美(26期)旧姓:貝原

〒816-0983 福岡県大野城市月の浦4-23-38
☎092-596-7643

近 藤 覚(19期)

近 藤 敏子(20期)旧姓:山崎

〒852-8053 長崎県長崎市葉山2-47-5
☎095-856-6346

九州青陵会

事務局長 加 藤 榮 一(20期)

〒811-3223 福岡県福津市光陽台2-12-8
☎0940-43-5388

イオン九州(株)

代表取締役社長 柴 田 祐 司(26期)

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-9-11 イオン九州(株)
☎092-472-0324

九大跡地に「青陵の街」誕生

「福岡市に(母校と同じ名前の)『青陵の街』ができたんですよ」。平成29年10月の九州青陵会の席上、こんな情報が飛び出し、来賓など県外の出席者の興味を引きました。

地域開発について、計画段階では新聞にもあまり載らないため、このニュースは初耳でした。編集委員も興味を持って早速調べてみると、青陵にとって驚くべき事実が判明しました。

福岡を代表する繁華街、博多や天神の西方で九州大学教養部の六本松キャンパス跡地(中央区六本松)の21,000平方メートルを再開発して新しい街並みの複合ビル「青陵の街・六本松地区」を10年がかりで整備したものです。東西二つに分かれ、東街区に有料老人ホーム、福岡市科学館、裁判所や検察庁、商業施設、九大関係では唯一の法科大学院、西街区には分譲マンションと商業施設などが入居し、完成しました。

九大は88年の歴史を刻んだ六本松キャンパスを閉鎖、西区の伊都

新生「青陵の街」のシンボルになると思われる九州大学の「青陵の泉」像



キャンパスへ移転統合を進めました。六本松キャンパス跡地には教養部の前身、旧制福岡高校OBらが建立した「青陵の泉」像がありました。さらに驚いたことに、旧制福岡高校同窓会はずばり「青陵会」でした。何と九大は「青陵」だらけですが、ネーミングは青陵高校が発案のようです。

再開発の地区名「青陵の街」は「青陵の泉」像、「青陵会」から生まれたものと思われま。ちなみに「青陵」の意味は「希

「青陵」像(旧制福岡校)シンボルに?

望にあふれた若者を育てる緑豊かな丘」だそうです。前途ある若者を育てるわが母校「青春の陵(おか)」と同じ意味が込められています。パンカラな「陵歌」を歌い継ぐ青陵高校と旧制福岡高校は文字通り名前であってつながっているみたいです。

本紙第46号で「『青陵』高校は全国に6校」という「こぼれ話」を掲載しました。第47号では岡山市の「青陵(あおはか)神社」、人名では江戸後期の儒学者・海保(かいほ)青陵の存在を紹介しました。今度はついに「青陵の街」が出現しました。

九大には青陵高校から毎年10人以上が合格しています。在学生は教養部のシンボル「青陵の泉」像はもちろん知っているでしょうが、学外ではあまり知られていなかったと思われま。

九州青陵会のある福岡で、近い将来、「青陵の街」が拠点ゾーンとなれば青陵の由来がさらに輝くことでしょう。

事業主体の都市再生機構九州支社(福岡市)は「九大の伝統を示す『青陵の泉』像は東街区へ設置しました。博多や天神並みに? そこまではいかならないと思いますが賑わいは創出したいですね」と話していました。

□…基礎データと写真はインターネット情報を基にしています。

名前の由来、わが校と偶然一致

世界初？流水水質浄化に成功

システム・マシンを開発

妹尾全郎さん

(12期)

遊びごとから世界初の流水水質浄化に成功！ アイデアとユーモアにあふれた自称個性派の発明家、妹尾全郎（たけお）さん＝12期＝を訪ねました。

妹尾さんは会社員時代に磨いた営業力を生かして独立、本のリース業を始めました。営業中に偶然の発見をしたのが始まりです。水道水を詰めた魔法瓶を車に積み仕事をしていましたが、夏以外は水を飲まず魔法瓶を車に放置、1年後「もう腐ってるだろう」と思って出して見ると、悪臭も変色もしていませんでした。恐る恐る飲んでみると、大変おいしくまるやかでした。その瞬間、「水は（車の振動で）動かせば腐らん」とひらめきました。そこから滝の水の原理を応用、流水による「おいしい水」づくりの遊びごとを仕事の合間に始めたのです。

41歳の時でした。浄化力、洗浄力を高める水道の特製蛇口を考案、本の顧客に1年間貸し出してモニターになってもらうと、「洗剤がいらす汚れがよく落ちる」「流し台のヌメリがなくなった」「手荒れが治った」と大好評でした。

自信を深め、倉敷美観地区の倉敷川、丸亀市役所の鑑賞池、京都・二条城の濠などで実証実験を行ったところ次々成功しました。家庭用から川・池・プールの水質浄化システムを開発、本格的なレンタル事業に乗り出したのです。

会社名は岡山弁「これ、えかろう、そのままに(株)エカローとしています。商品名も「エカロー・システム・マシン装置」です。

年商2億円にのぼるこの事業で特許2件、環境省エコ・マーク、東久邇宮記念賞「文化褒賞」、フィリピンの博士（環境工学）号を獲得しました。世界初が認定されればノーベル賞候補では？！

妹尾さんは「水質浄化の研究をしている大学の教授に教えるを請い、独特の感性で商品化しました。納得するまでウンと言わず親から変人と言われましたが、根っからの探求心で人生すべてうまく転がりましたよ」と、愉快地話してくれました。

□…妹尾さんは青陵時代テニス部。体育祭で当時流行した5社もあるダッコちゃんを作った思い出があるそうです／本件と同じテーマで創立100周年記念誌に寄稿しています。

博士

(環境工学)



エカロー・システム・マシン装置の一部を手に持つ妹尾全郎さん。手前は関連商品。

レンタル事業 展開

寄稿

17期 楠戸一彦

私が青陵に入学したのは、もう半世紀以上も前の昭和38(1963)年です。同期の岡部博吉さんが「ユニークな先生」について本紙第48号に書いていますので、私は柔道部の思い出を綴ります。中学校の時から柔道をしてきた私は、入学と同時に柔道部に入りました。入部して最初に教わったのは、柔道部の先輩方が作られた「陵歌」の「桜花爛漫」(5期の仁科先輩)と「嗚呼木枯」(5期の永山先輩)でした。

1年生の11月、井原市での新人戦に参加するため、早朝に起きてラジオのスイッチを入れました。アメリカとのラジオ(テレビも)による最初の宇宙中継が行われるからです。驚いたことに、この中継で伝えられたのはアメリカ大統領ケネディ「暗殺」のニュースでした。

2年生の10月には、第18回オリンピック競技大会が東京で開催されました。世界初のカラーによる宇宙中継が行わ

青陵時代の思い出



れ、カラーテレビが急速に普及しました。この大会から柔道が正式種目になりました。私の家にはテレビがありませんでしたので、親戚の家で試合(授業をサボって)を見ました。決勝戦で神永選手がオランダのヘー

シンク選手に負けた試合が忘れられません。3年生の10月、朝永振一郎さんのノーベル物理学賞受賞が発表されました。朝永さんは進学を考えていた東京教育大学(現在の筑波大学)の先生でした。この大学に幸いにも合格が決まり、入学前に朝永先生の『鏡のなかの世界』(みすず書房、1965年)だけは読みました。

昭和41(1966)年、柔道の修業を続け、高校の体育教師になる予定で前述の大学の体育学部に入學しました。しかし、この大学が柔道の創始者である嘉納治五郎師範が校長をしていたことも、日本の教育界に大きな影響力を持つ大学であることも知りませんでした。大学入学以後については、青陵の図書館に寄贈している拙著を読んでください。□：楠戸さんは広島大学名誉教授。スポーツ史の専門家で博士(学術)です。青陵高図書館へは「体育・スポーツ史の世界」など数冊を寄贈しています。

盛大に創立110周年記念



会場いっぱいには1200人が出席した青陵高校創立110周年記念式典



式典会場の看板

青陵高校創立110周年記念式典が平成30年9月28日、倉敷市民会館で盛大に挙行されました。県や市町、学校、PTA、同窓会など来賓約130人をはじめ、全校生徒、教職員ら約1200人が出席しました。

冒頭、土家楨夫校長が「明治41年、女学校として創立、地域に望まれて誘致した中学（旧制）と戦後合併して青陵高校が生まれて70年目を迎えました。今や全国に知られる高校となり、思考力、判断力を備え世界で活躍できる青陵生をさらに育成していきます」と式辞を述べました。

学校発展に貢献した同窓会役員ら功労者・永年勤続者48人に感謝状が贈られ、県知事（代理）ら来賓の祝辞に続いて岡田展弘同窓会会長（25

期）が、「110年という歴史の重さを感じると同時に地域の皆様に感謝しなければなりません。『青春の陵（おか）、で学んだ卒業生は3万4000人にのぼります。さらなる躍進を期待します』とあいさつ、生徒会長・小野茉紘（まひろ）さん＝2年生＝が、「来賓の皆さまと生徒全員でお祝いできることを喜んでいます。青陵祭など素晴らしい伝統を共有し一生懸命毎日を送ります」と、さらに年輪を刻む決意を述べ、最後に全員で歌った校歌が大ホールに響き渡り創立110周年の節目を祝いました。

出席者には、創立110周年記念誌、学校要覧、青陵紀要（第10号）、校誌「青陵」（第39号）などが贈られました。

1200人「世界の青陵生を育成」

5～12月、芸術鑑賞会やOB美術展

〈記念行事〉球技大会（5月1日、11月1日）／芸術鑑賞会（5月31日）／青陵祭（9月6～7日、11日）／講演会（9月28日）（平成31年）

／回顧展（9月27日～10月5日）／OB美術展（12月18～24日）

〈記念事業〉中庭整備

功労者ら48人に感謝状



感謝状を受ける功労者

石原元 会長（3期） 永井元 校長（19期）ら

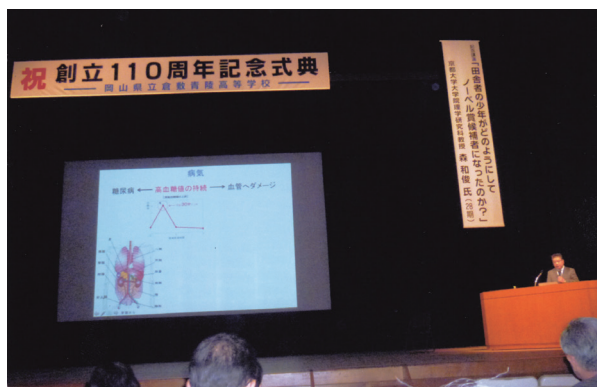
〈受賞者〉同窓会功労者（歴代会長）石原隆司、加川英郎、岡田展弘（歴代副会長）武部洋治、井上善弘、故佐藤武平（PTA功労者（歴代会長）久保津典子、河合雅子、野瀬純子、皿田愛子、秀平恵子、鮫嶋暢子、中村欽一郎、吾郷浩之、横山美加（教育功労者（最近の校長）永井裕、中山弘輝、田中尚（永年勤続者（在職10年以上）松尾慎、山本博、岡田守生、王谷周子、水子裕子（以上校医・学校関係者）／小野善隆、赤澤明、成田恒一郎、那須仁司、田中智子、加藤慎一、塩飽英明、

中川健、船越勝、有馬博文、秋山倫理、郷原宏章、三村美紀（以上旧職員）／広瀬洋介、大口千恵子、妹尾則之、前花直哉、難波俊晴、中山学、西森裕子、木村淳二、岡本崇志、大島伸政、橋村美由紀（以上現職員）◇特別功労者（部活動振興会会長）野山義兼（敬称略）

講演

京都大学教授・森 和俊さん(28期)

創立110周年記念式典に続いて、京都大学大学院理学研究科教授・森和俊さん(28期)が、「田舎者の少年がどのようにしてノーベル賞候補者になったのか？」と題して記念講演を行いました。青雲の志を持つ後輩の青陵生に、大志を抱いて取り組んだ細胞内の小器官「小胞体」研究30年の成果を1時間30分にわたり熱く語りかけました。以下はその要旨です。



講演する森教授

大志を抱き準備、挑戦、辛抱

私のライフワーク、小胞体の研究は今年30年を迎えました。その道のりをたどります。

私は青陵からバスと徒歩で1時間かかる児島の本荘地区(塩生)で生まれました。父は遠くまで稼ぎに行き、祖父母と母の「三ちゃん農業」でした。三木知事が水島にコンビナートを誘致してくれたおかげで、父がすぐ近くの会社で仕事ができるようになりました。

大学へ行かせてもらえるかどうか分からないような家庭環境でしたが、ここから這い上がるとういう強い気持ちがありました。深刻ではなく楽天的に考えていました。

新聞が好きで小学校5年生から科学記事をよく読み、「素粒子物理学」という言葉を知りました。湯川秀樹、朝永振一郎という京大のノーベル賞学者にあこがれ、京大理学部を目指しました。「十五にして学に志す」です。

ところが点数が合格ラインにやや届かない。新聞に「遺伝子」という言葉が出てきて分子生物学に興味を持ちましたが、まず工学部に入学しました。第一希望でなくても絶望することはありません。2回生を終え薬学部へ転部してタンパク質の研究をしました。研究は思った通り面白く、研究者として生きていきたい、と決めました。

細胞内のタンパク質合成「工場」
小胞体とは、細胞内の小器官で、ホルモンなど生命活動に必要なタンパク質を合成する「工場」。品質管理をきちんと行い、作り損ないの不良品タンパク質を選別し、廃棄する。何らかのストレスで工場に異変が生じた場合、製造機能を正常に整える役割をする「小胞体ストレス応答」と呼ばれる仕組みを解明したのが森さんである。

本当にやりたいこと見つけて

岐阜薬大の助手時代、8本の論文を書きましたが、展望がなく宮仕えのわびささを感じました。これは能力の問題か環境の問題かをシンプルに考えました。ならば環境を変えようと、30歳でアメリカ留学を決断しました。

「人間万事塞翁が馬」「人間到るところ青山あり」ですね。ここでライフワークとなるタンパク質の「小胞体ストレス応答」という仕組みを解明するテーマに出合ったのです。かつて興味を持った分子生物学です。

研究に没頭しましたが、そのうちライバルが現れました。もう後がない、先陣争いの死闘です。研究遂行能力は高かったと思いますが、一番でない意味がない。結果、彼とは共同で五つの国際賞をもらいました。

40歳で母校の京大に帰り研究を極めていきます。大志を抱いて準備をし果敢に挑戦、辛抱と健康が大事ーとは、ラスカー賞受賞の私のスピーチです。ラスカー賞受賞の後、2016(平成28)年9月、スウェーデンから招待講演に呼ばれ締めの講演をさせてもらいました。山中伸弥さん(京大教授)もこの講演の後、ノーベル賞をもらいました。

皆さん、本当に自分がやりたいことを見つけてください。目標はできれば2つ。1つダメになってももう1つあります。私は研究と剣道でした。

□…講演後、森さんに生徒代表から謝辞と花束が贈られました。森さんは平成29年12月、米国ブレークスルー賞を受賞しました。



謝辞の生徒代表らと記念撮影



〔回顧展〕(9月27日~10月5日)70年~110周年記念誌、創刊号からの校誌、卒業アルバム、倉女時代からの写真15点など約80点を展示=青陵高校創立80周年記念会館

森教授「文化功労者」に

平成30年度の文化功労者に京都大学教授の森和俊さん(分子生物学)が選ばれ、11月5日に東京のホテルで顕彰式が行われました。

ノーベル賞候補でもある森さんは長年、細胞内の小胞体研究を重ね、ストレス応答という仕組みを解明したことが高く評価され受章に至りました。

森さんは「60歳(という年齢)で選ばれたのはとても光栄です。この学問分野が文化として認められたことをうれしく思います。ひたすらこの山を30年登ってきましたが、頂上を目指してさらに登り続けます」と喜びを語りました。

学校生活

生徒指導課長
広瀬 洋介

生徒指導課では生徒たちに日々充実した学校生活を送ってもらうために多くの取り組みをしています。部活動や学校行事（球技大会、青陵祭）も仲間との友情を深める機会となっております。また、通学安全指導は保護者の協力をいただき、交通委員や風紀委員の早朝のあいさつ運動も落ち着いた学校環境づくりに貢献してくれています。

ネット相談システムを導入

今年度、岡山県の協力もあり、ネット相談システム（ストゥパイット）を導入することになりました。このシステムは自分のスマートフォンから学校に匿名でいじめに関する相談や通報ができるもので、いじめの発見や友人間のトラブルに早期対応できることが期待されます。

いじめは受ける本人や、それを目にした同級生が教師や保護者など身近な大人に相談



ネット相談システム 青陵高が運用開始

スマートフォン上で「ストゥパイット」アプリを起動し、匿名で相談や通報を行うことができます。

チャット形式、早期発見へ

チャット形式で気軽に相談できるため、早期発見・早期対応が期待されています。

青陵高校に導入されたネット相談システムの記事 平成30年5月24日付山陽新聞

いじめ、トラブル報告ゼロ

しにくいことが問題なのです。このシステムは匿名での報告なので完全に誰からの報告であるかわからず、自分のスマートフォンからの報告は3日で自動消去されます。画面上ではチャット形式で気軽に会話できるのが特徴であり、迅速な対応ができます。利点として、生徒から声が上がやすいことがあります。それゆえ、いたずらの内容報告もありましたが、現在のいじめ、トラブル相談は確認されていません。

今後、自分たちの安全な学校環境の中で、自分たちの目標とする進路実現をしてもらいたいと思います。

恩師は今 水間正雄先生 (保健体育)



「いやあ、若い人といると楽しいんですよ」と毎年、本部同窓会総会だけでなく案内状を受け取れば東京や近畿青陵会にも出向いてくれるエネルギッシュな先生です。

会場に来たらまず各テーブルに、はがきに仕立てた自らのスケッチ画を大量に配って回ります。かばんからスケッチ道具を取り出し、テーブルの向こう側に座る来賓や卒業生の似顔絵を慣れた手つきでサラサラと描きます。会が終わるころ、本人にサプライズなプレゼントをして喜ばれます。

同窓会で頻繁に教え子と交流

宴会中も「先生、お元気ですね」と、教え子がひっきりなしにあいさつに訪れ、そのたびに笑顔がこぼれます。続いて開かれる当番幹事らの2次会にも、教え子の中に座り教師と教え子の垣根を外して在学中の思い出話にどっぷりつかります。

青陵高校の在職は昭和49年から60年の11年間でした。男女共修、つまりテニスやソフトボールを混合で行う授業を県内で初めて導入しました。「工夫すればできますよ」とさらりと言います。さらに体育祭ブロック演技の導入など授業以外でも力を尽くしました。

40年近い教師生活でした。「教え子の数？ そこまでは把握してませんが、同窓会でのふれあいは教師冥利に尽きますよ」と、しみじみ語ります。

水間先生は昭和17年、倉敷市玉島に生まれました。中学時代は野球部でしたが、助っ人で出た駅伝大会で偶然優勝したのが

駅伝、中距離の元有力ランナー

きっかけで玉島高校では陸上部に入部しました。駅伝強豪校のメンバーとして4連勝、全国大会にも出場しました。

陸上備西地区大会新人戦の400m、800mの2種目を制覇し、インターハイにも出場しました。大学でも主に800mに取り組みました。

小さいころから絵が好きで、青陵で美術担当の福島隆寿先生（昭和40年～54年在職）に出会ってからスケッチ画にのめり込み30年以上になります。

40代から風景を求めて国内をすべて踏破、ヨーロッパを中心に世界34カ国でスケッチして冊子にし、個展も開いています。

駅伝で鍛えただけに、いつまでもフットワークの軽い先生でした。

スケッチ画の作品（倉敷アイビースクエア）



平成29年度末の主な教職員異動

昇格	異動	兼任	兼任
副校長 教 頭 泉 浩明（二九年）	総社 教 頭 三村 美紀（二六年）	総社 教 頭 三村 美紀（二六年）	総社 教 頭 三村 美紀（二六年）
	県立博物館 学員 全 秋山 亮（二八年）	県立博物館 学員 全 秋山 亮（二八年）	県立博物館 学員 全 秋山 亮（二八年）
	総社 教 諭 福井 隆志（二三年）	総社 教 諭 福井 隆志（二三年）	総社 教 諭 福井 隆志（二三年）
	岡山朝日 教 諭 亀山 佳紀（二三年）	岡山朝日 教 諭 亀山 佳紀（二三年）	岡山朝日 教 諭 亀山 佳紀（二三年）
	岡山朝日 教 諭 岸本 史雄（二三年）	岡山朝日 教 諭 岸本 史雄（二三年）	岡山朝日 教 諭 岸本 史雄（二三年）
	津山 教 諭 二宮 健一（二七年）	津山 教 諭 二宮 健一（二七年）	津山 教 諭 二宮 健一（二七年）
	鴨方 教 諭 逸見 じゅみ（二七年）	鴨方 教 諭 逸見 じゅみ（二七年）	鴨方 教 諭 逸見 じゅみ（二七年）
	倉敷中央 主 任 安東 光一（二八年）	倉敷中央 主 任 安東 光一（二八年）	倉敷中央 主 任 安東 光一（二八年）
	教 諭 頭 妹尾 英津子（県教委）	教 諭 頭 妹尾 英津子（県教委）	教 諭 頭 妹尾 英津子（県教委）
	教 諭 長井 真理（井原北校地）	教 諭 長井 真理（井原北校地）	教 諭 長井 真理（井原北校地）
	教 諭 岡田 泰全（真備陵南）	教 諭 岡田 泰全（真備陵南）	教 諭 岡田 泰全（真備陵南）
	教 諭 藤村 俊介（津山工業）	教 諭 藤村 俊介（津山工業）	教 諭 藤村 俊介（津山工業）
	教 諭 吉規 秀明（岡山操山・再任用）	教 諭 吉規 秀明（岡山操山・再任用）	教 諭 吉規 秀明（岡山操山・再任用）
	教 諭 坂本 憲治（岡山朝日・再任用）	教 諭 坂本 憲治（岡山朝日・再任用）	教 諭 坂本 憲治（岡山朝日・再任用）
	教 諭 青陵34期 大嶋 成幸（玉島）	教 諭 青陵34期 大嶋 成幸（玉島）	教 諭 青陵34期 大嶋 成幸（玉島）
	教 諭 戸田 祥太（新採用）	教 諭 戸田 祥太（新採用）	教 諭 戸田 祥太（新採用）
	教 諭 水川 俊昭（玉野光南）	教 諭 水川 俊昭（玉野光南）	教 諭 水川 俊昭（玉野光南）
	教 諭 岡崎 修（新採用）	教 諭 岡崎 修（新採用）	教 諭 岡崎 修（新採用）
	教 諭 中島 聖子（岡山南）	教 諭 中島 聖子（岡山南）	教 諭 中島 聖子（岡山南）
	教 諭 中村 玲子（新採用）	教 諭 中村 玲子（新採用）	教 諭 中村 玲子（新採用）
	教 諭 中務 進（倉敷中央）	教 諭 中務 進（倉敷中央）	教 諭 中務 進（倉敷中央）
	主 任 中島 佳美（岡山御津）	主 任 中島 佳美（岡山御津）	主 任 中島 佳美（岡山御津）
	副校長 池本 康彦（二七年）	副校長 池本 康彦（二七年）	副校長 池本 康彦（二七年）
	指導教諭 大橋 武文（二三年）	指導教諭 大橋 武文（二三年）	指導教諭 大橋 武文（二三年）
	教 諭 小坂田 郁生（二八年）	教 諭 小坂田 郁生（二八年）	教 諭 小坂田 郁生（二八年）
	教 諭 玉置 均（二八年）	教 諭 玉置 均（二八年）	教 諭 玉置 均（二八年）
	事務部長 杉野 正（二八年）	事務部長 杉野 正（二八年）	事務部長 杉野 正（二八年）
	講師 濱中 直子（二九年）	講師 濱中 直子（二九年）	講師 濱中 直子（二九年）
	講師 仲達 大輔（二九年）	講師 仲達 大輔（二九年）	講師 仲達 大輔（二九年）

泉教頭が副校長に 後任妹尾氏 三村氏は総社教頭

進路状況

進路指導課長
田中 誠一郎

東大・京大など
難関国立大学に

47人

地元
岡山大学に

75人

全国の
国公立大学に

273人

関関
同立に

145人

2018年 大学合格実績

難関国立大学					
東京大……………	2	大阪大……………	10	名古屋大……………	1
一橋大……………	1	九州大……………	15	神戸大……………	12
京都大……………	2	北海道大……………	3		
		東北大……………	1	合計……………	47
国公立大学					
筑波大……………	2	広島大……………	11	大阪市立大……………	2
千葉大……………	2	山口大……………	6	大阪府立大……………	7
滋賀大……………	3	徳島大……………	8	兵庫県立大……………	5
鳥取大……………	3	香川大……………	36	岡山県立大……………	7
島根大……………	6	愛媛大……………	13	その他の大学……………	82
岡山大……………	75	高知大……………	3		
		京都府立大……………	2	合計……………	273
国公立医歯薬					
国公立医学科……………	5	国公立薬学科……………	2	合計……………	7
岡山大学 学部別					
法学部……………	11	理学部……………	5	医学部保健学科……………	7
経済学部……………	5	工学部……………	18	薬学部……………	1
文学部……………	7	環境理工学部……………	2		
教育学部……………	16	農学部……………	1	合計……………	75
		医学部医学科……………	2		
主な私立大学					
青山学院大……………	4	早稲田大……………	5	関西学院大……………	35
東京理科大……………	5	同志社大……………	31	岡山理科大……………	32
明治大……………	7	立命館大……………	52	川崎医療福祉大……………	22
立教大……………	2	近畿大……………	40	N D 清心女子大……………	73
		関西大……………	27		

国公立合格 近年最多273人

研究者との座談会を実施

2018年入試の国公立大学の合格者数は273人（浪人含む）で、過去20年間で最多だった。2016年を超える結果となりました。難関大学47人、岡山大学75人の合格は全国的にも注目されています。生徒の志望を高め、それを貫かせる進路指導と自己実現に必要な素養を身に付けさせる教科指導を両輪としたキャリア教育の成果と考えています。

「大学入試センター試験」は「大学入学共通テスト」に切り替わります。この入試制度変更の大前提には「高大接続改革」があります。時代や社会の変化に対応できる人材の育成のため、高校及び大学の教育内容の見直しが進められており、この10年ほど教育界では、生徒の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」という学力の3つの要素を全体として高めていくことを大前提としたさまざまな取り組みが進められてきま

した。高校はそれに対応した授業観の精選や見直し、学習活動や形態の改善・変革を迫られています。青陵高校では従来、教科指導や進路指導の研究・改善に努めてきました。授業では生徒が主体的に学ぶ姿勢を重視し、総合的な学習の時間では、課題解決型の探究的な学習を充実させています。新入試に移行する現1年生については、ポートフォリオで学習履歴の蓄積に努めています。進路行事としては、企業訪問「Future Watchings」や岡山大学による学部学科説明会「Dream Project」、昨年度から実施の東大・京大・慶応大の先生方による出張講義「先端学問特別講座」などで、生徒が自身のキャリアについて考える契機としていま

す。また今年度から様々な分野の研究者との座談会「青陵サイエンストーク」を実施しています。このような種々の経験が生徒の意欲を高め、高質な学力の養成につながっていくと信じて、より一層進路指導の充実を努めてまいります。たいと思っております。OB・OGの皆様には、ご理解・ご支援の程よろしくお願ひいたします。

企画広報室がミニ情報紙発行



受験生らにオープンスクール特集が好評の「S-Press」青陵 Hot Topics

中学生の皆さん、高校生活は青陵でー。企画広報室(堀直泰室長)は5年前からミニ情報紙「S-Press 青陵 Hot Topics」を5、8、10月

の年3回発行しています。

毎年5月号は全4ページを中学生に向けた高校選びのための特集を組みます。フロントページで「『青春の陵』へようこそ!」(2014年)、「とことん楽しむなら青陵!」(2016年)、そして2017年は「未来を選ぶ 青陵で選ぶ」のキャッチフレーズで受験を呼び掛け、「青陵で学ぶということ」「団体戦」でみんなが主役」などの記事で青陵の教育方針や特徴、魅力を紹介しています。

2面は県内トップクラスの設備で行う授業、伝統の「文武不岐」の部活動の展開状況、3面は生徒が自主運営する8月の第1回オープンスクールの参加案内と申し込み受け付け、

昨年の部活動体験や制服試着コーナーの様子、4面は入学式やピギングセミナーなど4、5月の行事をまとめています。

8月号はオープンスクール特集として、当日の日程や10月の第2回オープンスクール、11月の第2回「青陵理科実験教室」の参加案内で構成、オープンスクールに訪れた中学生に配布します。

10月号は2年生の総合学習ゼミ活動や青陵祭、青陵OBの教授のいる大学訪問記などを載せます。

紙面はスクールカラーの青を基調に、写真も随所に入れコンパクトで読みやすい洗練された紙面に仕上がっています。

5年前から年3回「S-Press」

企画広報室と学年主任らが取り組み、堀室長は「手分けして原稿を書き、レイアウトや見出しを考えます。写真は卒業アルバムを担当するOB経営の今岡写真館にもお願いしています」というから本格的です。

1万数千部発行。全校生徒960人と教職員のほか、学区内の全中学2年生に配布しています。

あとがきで、「『学校案内』とは少し違った側面が伝わるように作りました」とあります。評判は在校生や中学生にも上々のようです。

オープンスクールや青陵祭

明治14年創業 奥田商店

奥田加代子 代表 (27期・家政科) =倉敷市阿知=

岡山藩士だった奥田峰太郎さんが現在地に移住して明治14年に創業、今年137年になるおもちや屋の奥田商店です。曾孫の加代子さん(27期・家政科)が4代目を継ぎ一人で切り盛りしています。短大で栄養士資格を取った後、1年の会社勤務を経て家業の奥田商店を経営して38年になります。

店にはりかちゃん人形やウルトラマン、トミカ(ミニ自動車)、お面など乳幼児のおもちゃから、ミルクボーロやラムネなどの駄菓子まで豊富な品ぞろえをしています。子どもたち、いや大人も童心に帰れるワールドです。



「街のおもちや屋さん」の風情が漂う奥田商店

の修理もする従来の「真心のお付き合い」がモットーです。少なくなった「街のおもちや屋」の灯は消したくないですね。幸い長男の嫁が継いでくれる予定です」と、にこやかに話します。

□：奥田さんは青陵時代、応援団女子リーダーでした。野球部が夏の高校野球岡山大会でベスト8に進出、優秀応援団賞をもらいました。長女(現姓保田)直美さんは52期、次女(現姓鈴鹿)幸恵(さちえ)さんは54期です。平成14年度、女性初のPTA会長を務めました。奥田商店は平成30年7月に解体、来年新装オープンする予定です。

「街のおもちや屋」を守り38年

昔ながらの倉敷本通り商店街の南はずれに、小ぢんまりとした派手なお店が目飛び込んできます。昔懐かしいバクダンキャンディーやおもちや、人形が店先から店内にかけてずらりと並んでいます。その数は1000種類にのぼります。



店を一人で切り盛りする奥田加代子さん

奥田さんは「最近は何屋自体が少なくなり、仕入れは中国やベトナム製が多く日本製を探すのに一苦労ですが例えば花火は日本製にこだわります。コンピュータゲーム機を扱わないのをポリシーにしています」と話します。

大原美術館など美観地区のすぐそばだけに国内外の観光客がよく立ち寄ります。ウルトラマンと店先のバクダンキャンディー、100円くじが特に人気で、土・日には一人では追いつかず、夫(会社員)の応援を頼みます。バクダンキャンディーって岡山生まれなんですよ」と教えてくれました。

さらに、雛人形や兜、鯉のぼりなど節句人形も並べています。中でも奥田さん手作りの一点物、木目込み人形が自慢の商品です。縁起物の「福わらべ」や「長寿の祝」など、持ち帰りやすい大きさなのでプレゼントにする人が多いそうです。

木目込み人形は奥田商店に入って間もなく始め、今では「江戸木目込み人形師範」の腕前です。103歳まで生きた祖母・米(よね)さんにちなみ「米寿」の号で制作に励んでいます。「壊れた雛人形

「倉敷の老舗」を訪ねて④

明治33年創業 (株)仁科百貨店

仁科喜佐男 相談役 (5期) =倉敷市連島町=



今も店の見回りを欠かさない仁科喜佐男相談役＝フードバスケット羽島店

兄を助け業容拡大へ多店舗化

倉敷を中心に岡山県南に多くの店舗を展開する鳩のマークの「ニシナ」でおなじみの仁科百貨店を、経営者の兄喜佐さんと二人三脚で県内屈指のスーパーマーケットチェーンに発展させたのが仁科喜佐男さん(5期)です。

先祖は里庄町浜中で、元をたどれば同所出身の物理学者仁科芳雄の一族です。喜佐男さんの祖父喜惣治さんが福田村中畝に移住して明治33年、屋号と同じ「浜中屋」を開いたのが最初です。創業の精神「誠心誠意」を貫いて今年で118年になります。

ます。昭和24年に株式会社仁科百貨店に改組しました。



創業の精神を貫き試練を乗り越えた仁科さんらの業績をまとめた創業100周年記念誌「誠心誠意」たれ

喜佐男さんは同33年、大学卒業と同時に入社しました。当時、店舗は300坪(990平方メートル)の木造平屋建てが一つしかなく、取扱商品は生鮮食品を除く食品、毎日入荷する日配品、酒、煙草、切手類、衣料品、雑誌、文房具などでした。入社して1年後、広島の商品安売店を見学に行きました。これだ、と思い、兄と相談して生鮮食品の導入と日用品の拡充を始めました。食品の安売りは大好評で、売り上げをぐんぐん伸ばしていききました。

ところが、店舗全焼。入社3年目に突如悲劇に見舞われました。原因は新設した冷凍機の漏電でした。多額の負債の半分を祖父の時代からの信用が

間屋、メーカーを動かし償還を5年間延期してもらい、10日後には仮店舗に商品が山積みになりました。喜佐男さんは「祖父の代からの信条、商売人は嘘をついてはいけない」が間屋、メーカーの信用を呼び、さらに顧客の同情と信頼がピンチの脱出につながったと思います」と振り返ります。同38年秋には鉄筋4階建ての本社店舗として復活しました。

その後10年間は債務の返済やチェーン展開の研究に費やし、水島地区に4店舗出店したのみでしたが、同50年の巨大なニチイ水島店の進出を機に多店舗化に踏み切りました。小溝店を皮切りに笹沖、三門、津山、笠野、玉野、児島、西大寺、総社などに次々出店しました。

常務専務、副社長、副会長を経て現在は相談役です。業界では岡山県内資本のスーパーマーケット13社を糾合して懇話会を設立、会長を務めました。

□：同社は現在、仁科喜佐男さんの甥正己さんが4代目社長となり、新たに「フードバスケット」を30店舗展開しています。同社は創業100年を迎え平成15年、記念誌「誠心誠意」たれ」を出版しました。

短歌 教員の傍ら50年、歌集を3冊

飽浦 (旧姓池上) 幸子さん 倉女39期

私は都窪郡豊洲村(現倉敷市)に生まれました。父母が小学校教員だったため、岡山県内の小学校を3度も転校しました。久米郡の久木(ひさぎ)小(現柵原西小)、赤磐郡の黒本小(現城南小)、そして倉敷の中庄小です。一番長くいたのは黒本小ですが、いずれの学校も山が近く、ほとりを川が流れていました。この山や川の豊かな自然が私の心を育んでくれたように思います。

倉敷へ転居したのは昭和15年で、2年後に倉女へ入学しました。太平洋戦争の真っ只中でしたが、♪木木みな花に酔ふ春も 千草の露に泣く秋も…と歌う校歌が私達の心をうるおしてくれました。

同26年に岡山清心女子専門学校(現ノートルダム清心女子大学)を卒業、中学校の英語教員となり倉敷市内に勤務しました。

英語を教えることで日本語の美しさを再発見、同43年以来、短歌結社「龍」に所属して活動しています。岡山県歌人协会会员、日本歌人クラブ会員でもあ



飽浦幸子さん

り、これまでに歌集『彩雲』、『旅は祈り』、『遠景の棟』を自費出版しました。

短歌歴はかれこれ50年になります。私の生きがいであり、ライフワークと申って日々精進しています。□…本稿は高梁川流域連盟機関誌「高梁川」第75号掲載(平成29年12月 発

高梁川 四季の歌
 春 高梁川の砂洲の白楊の木枝先の赤らみ初むと見て通るなり
 夏 鮎追ふと裸足にて駆けし河原の石熱かりしはいつの日のこと
 秋 草むらを跳びしかふ虫の足ぢからおんぶばつたはおんぶのままに
 冬 ふたつの川ここに合ひ寄る高梁の街の朝を霧うごきをり

行)の飽浦さんの投稿を、ご本人の了解を得て再編集したものです/日本画の趣味もあり倉敷美術協会に加入して活動、岡山県展賞などの受賞歴があります/次男池上亮介さんは28期です/倉敷市在住。

趣味に生きる

岡山県内屈指のアマ・マジシャン 倉藤孝之さん



四角い紙を広げて「何か面白い模様が描いてありますねえ。実はこの中に漢字が2文字隠れています。紙をたたむことによってそれが出てきますよ」と言いながら、鮮やかにたたんだり向きを変えたり。出てきた2文字は「手品」でした。「さあ、皆さんにも前に出てやってもらいましょう」。

倉敷市茶屋町公民館で毎月開かれる「やさしいマジック」講座です。いかにもマジシャンという赤いチョウネクタイに白いフリルのついた青い上着の先生が受講生を気分よく乗せます。

先生はこの道33年のベテラン倉藤孝之さん(芸名・ユキくらとう) = 13期 = です。マジックを趣味にするきっかけは40歳ごろ、子ども会役員をした時、「子どもたちに楽しんでもらえる出し物はないか」と考えて、思いつ

指導と奉仕33年 県内屈指の実力

いたのがマジックでした。

早速、水島公民館の入門講座に参加、7年ほど精進して指導者になりました。会社を定年退職する前後から、「上手なマジックより楽しいマジック」をモットーに、倉敷をはじめ岡山や津山などの公民館で講座を担当するなど幅広く活動しました。「先生はクスツ、ニヤツとするようなネタが多くて楽しいですよ」とは受講生の声です。

並行して、阪神大震災には仲間と大きな荷物を持ち、乗り継ぎを繰り返して神戸市の避難所にたどりつき慰問公演をしました。これがボランティアグループ「奇楽会」の結成につながり会長になりました。今では主に福祉施設で披露、多くの人に楽しんでもらっています。

この間、倉敷市の「広報くらしき」で紹介され、NHKテレビでは全国放映されました。長年の指導と奉仕が認められ、奇楽会は倉敷市や岡山県社会福祉協議会から計3回感謝状を受けました。

若いころの釣りの趣味から転向した倉藤さんは、今では県内屈指のアマ・マジシャンですが、「手先が器用? いやいや学校の工作はうまくなかったですよ。女性を入れた箱に剣を通す大ネタからトランプなどの小ネタまで300種類ぐらいいり、道具は新聞紙と10色のシルクのハンカチをよく使います。醍醐味はずばり多くの人との『ふれあい』です」と、ネタ同様スパツとしたオチでした。

□…倉藤さんは在学中、一時野球部に在籍していました/倉敷市在住。

マジック

倉藤孝之さん(13期)

♪アイ！ 溢れる世の中を／ラブ！ 目指してハツラツと…



ユニークな社歌ラップを作ったクラブ伊澤正信社長

♪アイ！ 溢れる世の中を／ラブ！ 目指してハツラツと…。朝礼で社員が軽快なノリで歌う会社があります。伊澤正信社長(20期)率いる全国屈指の大型文具専門店クラブ(株)=本社・倉敷市笹沖=です。朝からコンサートではありません。実はこれ社歌なんです。最近では校歌なども型通りでない若

クラブ伊澤正信社長(20)に聞く

者向きの曲調を採用するケースがありますが、同社の社歌は一気にラップ調でキメています。この斬新さが評価され平成29年2月、見事、第1回全国社歌コンテストの初代チャンピオン(大賞)に輝きました。伊澤社長を訪ねて社歌の狙いや反響、業績について語ってもらいました。(聞き手は編集委員)

ラップ調社歌で全国コンテスト大賞

—伊澤社長、ラップ調社歌のコンテスト大賞受賞おめでとうございます。導入のきっかけ、なぜラップ調なのかお聞きします。

2年前かな、入社前の私が作り40年歌ってきた古〜い社歌を作り直そうと思ったんです。トレンドーな曲で行こうと思ひ、社員にいきなり「ラップで作る！」と宣言しました。なぜラップ調かと聞かれるんですが分かりません、もうひらめきですね。プラスバンドなど青陵時代から音楽に親しみ、学生時代は四国ヤマハポピュラーソングコンテストで2回優勝。今も社内のバンド同好会で活動、ギターとボーカルを担当してます。今回はそのバンドの若い社員が中心になって作詞・作曲をして仕上げました。社内では「社歌ラップ」と呼んでいます。

—社内外の反響はどうでしたか。

社員は初め、「エッ、何やのこの社歌？」とびっくりしてましたが、若い社員から年配まで馴染むのは早かったですよ。1年ほど週3回、朝礼で歌っていたところへ、社歌コンテストの主催者(電通系)からオファーが来て動画を送りました。応募はあまり多くなかったみたい。コンテストのために狙って作ったんじゃないんで勢いです、ホントに偶然です。受賞後は大変な反響で新聞やテレビの取材攻勢に遭いましたよ(笑)。山陽新聞はもちろん、ニュース23(TBS)や「とくダネ」(フジ)など、平成29年10月にもNHKの朝の番組で放映してくれました。たくさんの人から「面白い社歌作ったねえ」と言ってもらえて望外の喜びでした。

—クラブンといえば「うさぎや」で有名ですが、会社の概要を教えてください。

昭和26年に父母が個人経営で始めた文具店が最初です。その後、会社組織にして倉敷文具(株)、さらに現社名に変更しました。私は大学を卒業して松下電器(現パナソニック)で営業を4年経験した後入社、平成2年に父の跡を継いで39歳で2代目社長になりました。本社、支店・営業所、それに倉敷、岡山、福山にうさぎや6店舗を展開しています。クラブンを企業部門、うさぎやを小売り部門として分担しています。私がうさぎやなんでもうさぎやです。全国でも例を見ない文具のみの大型専門店ですが、つくる折、周りはみんな大反対しました。「文具だけで売れるか！ 本とかCDを組み合わさないと」。ところがおかげで大当たり。全国から視察と講演依頼が殺到しましたよ。社員は363人、6万アイテムを揃え売上高は69億円(平成29年現在)です。

—社歌ラップ導入で社内の空気に変化がありますか。



朝礼で社歌ラップを歌うクラブンの本社社員=クラブン(株)提供

よく聞かれるんですが、注射1本(社歌)でいきなりは変わらないでしょう(笑)。話題は提供しましたが、社業への直接の波及効果はないです。「未来のオフィスを想像する」をスローガンに、チームプレーで顧客の注文や問い合わせに的確に対応、オフィスパートナーとして喜ばれる存在でありたい。モットーの信頼、信用、信念で信を積み、社歌ラップで社員の一体感を出そうと思います。

—益々のご繁栄をお祈りします。お忙しいところ、ありがとうございました。

□…伊澤さんは現在、倉敷商工会議所副会頭。妻順子さんも20期の同級生結婚。ミュージシャンとして活躍する長男啓太郎さんも46期の青陵一家です。

音楽好き、つゆめこーい

ラップとは、南アフリカ生まれの歌唱法。ストリーアップの訴える力を持った歌詞をリズムカルにしゃべるように歌う。

社業促進へ社員一体感狙う

近畿青陵会会長

弁護士 大 水 勇 (14期)

大阪市北区西天満5-9-3 アールビル本館7階
〒530-0047 TEL 06-6311-0577

近畿青陵会常任幹事

大 月 修 (19期)

兵庫県姫路市安田4-165-1-704
〒670-0955 TEL 079-225-8030

京都大学教授

森 和 俊 (28期)

大学院理学研究科

会員ニ点描 (平成29、30年 現役を含む)

[受賞・受章] 植木(旧姓高谷)朋子さん(2期)が平成29年5月、春の叙勲で瑞宝単光章を。民生委員、人権擁護委員、国勢調査・統計調査を12〜45年務めました。◆中根公郎さん(16期)が同年11月、秋の叙勲で瑞宝小綬章を。倉敷中央高校校長などを務めました。◆結成50年のカウントハード・ジャズオーケストラ=17期・松井大(大圓)代表=が同年11月、倉敷市文化連盟奨励賞を。県内ジャズ界を牽引しています。◆岡(現姓古川)隆夫さん=8期=が同30年1月、山陽新聞賞(文化)を。前年の日本詩人クラブ賞に次ぐ受賞です。「詩とは命の根源を探求する作業」と言い、21冊の詩集を出版しています。中四国詩人会の創設に奔走、会長を務めています。5月には岡山市内のホテルで受賞祝賀会が開かれ、未発表の詩を朗読しました。◆現役の倉敷市議で亡くなった雨宮紘一さん(11期)に同年1月、従五位旭日小綬章を。◆青陵高の広瀬洋介教諭が監督を務める全国都道府県対抗女子駅伝の岡山チームは同月、京都で開かれた第36回大会で4位に入賞しました。前年の準優勝に次ぐ連続入賞です。◆池田(旧姓難波)邦子さん(4期)が同年2月、エッセー「第10回つたえたい、心の手紙」コンテスト(くらしの友主催)で、1031点の応募作の中から金賞に選ばれました。亡母を今なお慕う純粋な気持ちを綴りました。◆同年3月に亡くなった樫村忠美さん(2期)に4月、従六位を。倉敷・西中校長でした。◆早島町の佐藤(旧姓岩崎)光子さん=倉女27期=が同年4月、100歳の誕生日を迎え同町から祝い状を。◆野田(旧姓藤原)勝子さん=倉女27期=も同年11月に。◆松井大(大圓)さん(17期)が同年4月、春の叙勲で瑞宝双光章を。倉敷・御園幼稚園長です。◆同年11月、青陵高の田中誠一郎教諭が本年度教育関係功労の業績奨励教員で。◆元岡山県副知事の古矢博通さん(18期)が同月、秋の叙勲で瑞宝中綬章を。◆河田義正さん(元在職教員)は瑞宝小綬章を。

[就任] 土家禎夫校長が平成30年4月、岡山県高校長協会副会長に。任期は1年。◆同年6月、松尾茂樹さん(27期)が倉敷スポーツ公園理事長に。◆芸芸館高の硬式野球部監督山崎慶一さん(元在職教員)が同年8月、同監督を退任、来春発足する岡山県内初の女子硬式野球部監督に。◆外務省の吉田雅治さん(25期)が同年9月、駐タンザニア大使から駐スロベニア大使に。

[当選] 平成30年8月に行われた早島町議選で、細田貴道さん(31期)が4年ぶりに返り咲き2回目の当選を果たしました。

[かるた甲子園団体戦初出場] 創部5年目の青陵高校競技かるた部が平成30年5月、県予選でライバル玉野光南高を破って初優勝しました。7月の全国大会(かるた甲子園)に団体戦で初出場しましたが、惜しくも1回戦で敗れました。個人戦ではC級(初段)に2人が4位、D級(無段)に準優勝者のほか3人が4位に入賞しました。

[講演] 平成30年7月、岡山市で開かれた「ゲノム医療」初の国際会議で、京大教授森和俊さん(28

期)が「小胞体の機能と制御のダイナミクス」と題して日本語と英語で。◆肝炎デー(7月28日)にちなみ、同年の同日、倉敷・松田病院院長松田忠和さん(18期)が「当院における肝悪性腫瘍の治療」と題して。

[展覧会] 美術家の故小田(旧姓宗田)宏子さん=9期=の作品展が平成29年9月〜11月、岡山市の岡山県立美術館で開かれました。初期の油彩画から晩年の雁皮紙を材料にしたオブジェ作品まで多数を展示。独自の作風を確立した小田さんの60年に及ぶ画業をたどる「遺作展、でした。◆酒津兜山窯の岡本達弥さん(44期)の作陶展が同年10月、倉敷美観地区の日本郷土玩具館で開かれ、食器や花器など力作約50点を展示しました。◆同30年2月には第35回田部美術館大賞「茶の湯の造形展」で優秀賞を受賞しました。◆美術家の岡部玄(知敏)さん=17期=が同年8月、倉敷のサロン(古民家)で個展を。ドローイング(製図、デッサン)や流木オブジェなど30点を展示しました。

[作陶展] 平成30年6月に倉敷アイビースクエアで開かれた「くらしの陶芸家大集合」(倉敷陶友会主催)に、青陵OBの陶芸家8人がそろい踏みしました。それぞれの持ち味を生かした酒器や花瓶、壁飾り、アクセサリーなどの作品を1人30〜50点展示しました。8人は陶友会会長岡本篤(13期)・和敏(44期)父子=天神窯/三宅玄祐(本名元)・22期/青木優三(25期)/岡本研作(26期)・和明(36期)兄弟=酒津焼/武内立爾(29期)=酒津櫻窯/岡本達弥(44期)=兜山窯=の皆さんです。◆写真。



[著作] マルチタレント水道橋博士(本名・小野正芳)=33期=が平成29年11月、「藝人春秋2」(上下、文藝春秋刊)を刊行しました。メディアでオーラを放つ人の生態を観察した長編です。上下各1728円。◆同月、会社経営三木相煥さん(27期)が「『神』リーダーシップ」(実務教育出版刊)を。新時代に求められるリーダーシップのあり方を説いています。◆前サッカー台湾代表監督黒田和生さん(18期)が同30年5月、「人の心を耕す」(カンゼン刊)を。育成論、コーチング論など自叙伝的な内容です。1600円(税別)。

[寄付] 平成30年1月に亡くなった雨宮紘一さんら11期有志のイレブン会が8月、解散に伴い残金30万円を青陵高校同窓会へ。

[同窓会入会式] 平成30年2月、青陵高校体育館で。今春の69期卒業生317人が入会しました。卒業生は累計3万4011人です。同窓会から卒業生へ記念品の目録(卒業証書入れ)が贈られました。

2019年の予定

本部総会

8月4日(日)
午前10時から
倉敷アイビースクエア
(当番幹事)5と6の付く期と
本年度の卒業生(70期)

東京青陵会

6月8日(土)
午後3時から
東京・明治記念館

近畿青陵会

5月26日(日)
正午から大阪・太閤園

九州青陵会

10月12日(土)
午後4時から
福岡・西鉄グランドホテル

編集を終えて

●…創立110周年記念式典を無事成し遂げました。生徒・教職員が一丸となって2年前から周到に準備、受付や司会、進行などをよどみなくこなし、数々の記念品に礼状まで添える見事な演出に感心しました。願わくば、回顧展を会場で開き来賓や卒業生に披露、世界の森さんの記念講演会を市民に開放したら、という欲張った気持ちにもなりました。

●…災害が少ないといわれた倉敷でまさかの水害! 平成30年7月豪雨で、被災された真備町をはじめ全国に展開する青陵卒業生や関係者がおられます。青陵在校生の場合、真備町関係では自宅が床上浸水、親戚などへ避難、倉敷の小学校へ避難などの被災者が出ました。在住の教諭2人は無事でしたが、倉敷の小学校へ避難した生徒2人は制服や学習用具が一切なく、10日後ぐらいに応急処置をしてやっと登校に漕ぎつけました。期末考査がほぼ終わっていたので学校側はほっとしていました。

(編集主幹・佐藤豊行)

岡山県立倉敷青陵高校「同窓会だより 青陵」第50号

発行 岡山県立倉敷青陵高校同窓会
[事務局] 〒710-0043 倉敷市羽島1046-2 TEL:086-422-8001 FAX:086-422-8004
e-mail:seiryoo05@pref.okayama.jp URL:http://www.seiryoo.okayama-c.ed.jp
発行人 岡田展弘(25期) / 編集委員 今岡道雄(13期) 佐藤豊行(18期) 林俊輔(28期)
顧問 加川英郎(4期)
印刷 株式会社サラト 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

お願い 同期会や同窓生の情報を佐藤豊行(編集室)、林俊輔(青陵高校教諭)へお寄せください。

〔本紙の編集〕
*原稿締め切りは9月20日です。編集、校正作業を経て12月末に全卒業生にお届けします。
*幹事の当番期に拘わらず、広告掲載をお願いしています。1枠5000円

菅井竜也「王位」誕生に貢献

倉敷市大山名人記念館長・北村実さん(3期)



「彼はよくやりましたね。第一人者の羽生(善治)さんに4勝1敗ですから、ほぼ完勝と言っていいでしょう。平成生まれのタイトル獲得第1号です」。

彼とは平成29年8月、初挑戦で念願のタイトル「王位」(第58期)に輝き、岡山関係者としては34年ぶりのタイトルホルダーとなった菅井竜也七段です。快挙を称えるのは倉敷のお師匠さん、倉敷市大山名人記念館長(当時館長補佐)の北村実さん(3期)です。

岡山市生まれの菅井さんは、小学校4年生

から同記念館で開かれる将棋教室に通いました。主に指導したのが北村さんで、「言葉かずの少ない内向的な子なので、プレッシャーをかけないようにしました。最初、オールラウンドに教え、振り飛車が得意なようなのでこれをじっくり教えました。彼はね早指しなんです。ヨミの正確さと決断力がありません。5年生で早くもアマチュアのレベルを超えましたね」と驚きます。

北村さんが3年間指導した後、6年生で日本将棋連盟のプロ棋士養成機関・奨励会に入って6年、18歳で順調にプロ棋士になりました。勝率も良く昇段を重ね7年後、25歳で今回の

タイトルをつかみました。現在はトップ棋士A級(10人)のすぐ下、「鬼の棲家」といわれる厳しいB級1組(13人)でしのぎを削り、次のタイトルを狙います。

北村さんは「面倒見のいい井上慶太九段を師匠として紹介、高校との両立の相談を受けました。彼の場合、中退を決断して成功したと思います」と振り返り、「タイトル保持者となり各種イベントに引っ張りだこですよ。元来努力家なんで、勉強時間が減るのが心配です。パソコンソフトを使った研究から編み出す彼独特の戦法『菅井流』に磨きをかけ、さらに活躍を続けてもらいたいですね」と愛弟子を温かく見守っています。

北村さんは岡山大学3年で将棋と出会い、各種将棋大会で大山康晴十五世名人(当時名人)自ら灰皿を片付ける作業を手伝ったのをきっかけに知遇を得て30年、地元倉敷の「城代家老」のような存在でした。連盟公



菅井竜也七段を囲んで王位獲得を喜ぶ関係者。将棋盤前が菅井王位、その右が北村実さん=平成29年11月11日付山陽新聞より

認の棋道師範(アマ六段)で、数年前から大山名人記念館長を務めています。

青陵時代、将棋部はなく園芸部を創設して温室を作り、当時まだ珍しいシクラメンを栽培、自転車で売りに行ったという一面もあります。

□…菅井さんは平成30年夏の第59期「王位」戦の初防衛はなりませんでした。

将棋教室で3年間じっくり指導

2018年の主な成績と表彰・指定選手

開催日	大会	種目	成績	順位
2月	きららカップ	50背	25秒22	①
4月4日	日本選手権	50バタ	23秒75	③
4月6日	同	50自	22秒15	②
5月24日	Jオープン	50バタ	23秒47	①
5月27日	同	50自	22秒19	③
8月21日	アジア大会	50自	22秒46	③
8月23日	同	50バタ	23秒88	④
9月1日	日本社会人	50自	22秒39	②
9月17日	福井国体	50自	22秒27	①

*2018年 岡山県トップアスリート賞優秀賞
山陽新聞体育賞
岡山県オリンピック育成事業強化指定選手



中尾選手(倉敷出身)の銅メダル獲得を報じる山陽新聞(平成30年8月22日付)

2連覇、社会人となった今春の日本選手権では準優勝しました。同月のパンパシフィック選手権にも出場しましたが振るわず、アジア大会での活躍を誓っていました。

アジア大会 50自銅メダル 競泳のホープ 中尾駿一選手(65期)

競泳の東京五輪代表を狙うホープ、中尾駿一選手(65期)は山陽新聞社が、平成30年8月に開かれたジャカルタ・アジア大会の50分自由形で、見事銅メダルを獲得しました。岡山勢の競泳での表彰台は20年ぶりです。